

遺伝子医学 MOOK 別冊 ペプチド・タンパク質 医薬品の新規 DDS 製剤の開発と応用

山本 昌 編

メディカルドゥ/B5・288頁・5,600円

バイオ医薬品として開発を目指すペプチドやタンパク質の中には、分子量が大きく生体内への送達が困難なもの、分解しやすいものも多く、これら医薬品の開発には高いDDS技術が必要となる。本書は、DDS技術の最新の開発研究を分かりやすくまとめた1冊である。

「DDS技術」といっても内容は様々であ

り、マイクロニードル等の製剤的技術から、リポソームのような生化学・分子生物学の専門知識を駆使したものまで多岐にわたる。本書では、数あるDDS技術を5章に分けて説明されている。具体的には、1章；製剤添加物による経口・経粘膜吸収の改善，2章；プロドラッグ修飾，脂肪酸修飾等の化学修飾による消化管からの吸収改善，3章；S/O技術，リポソーム等，剤形修飾による吸収改善，4章；経皮，経肺，経鼻等の各種粘膜吸収経路を利用した消化管ならびに経粘膜吸収改善，5章；微粒子キャリアー等を用いた高分子物質の注射投与後の体内制御ならびに標的指向化で構成されている。各種DDS技術の説明

が、最新の研究成果も踏まえてコンパクトにまとまっており、初めてDDS技術に触れる研究者から、実際に開発に携わる研究者まで、幅広く知識・理解を深めることができる。

ペプチド・タンパク質性医薬品のDDS技術は、医薬品開発の可能性を広げる重要なツールである。この分野の研究者のみならず、医薬品の創製にかかわる薬理や薬物動態の研究者、低分子化合物のDDS技術に携わる製剤研究者にも、是非お薦めしたい1冊である。

金山範洋 Norihiro KANAYAMA

